

■ 工作機械事業

Q. 放電加工機の第3四半期以降の生産台数見通しについて。

A. 下期の増産が見込めないために第3四半期以降の生産台数は、上期と同水準の見通し。

Q. 放電加工機の第3四半期以降の受注見通しについて。また、お客様サイドで機械の確保が遅れることにより設備投資マインドの低下に繋がっているとのコメントは具体的にどの地域か。

A. 月次の受注台数は300～350台で推移すると想定。

中華圏は納期優先のお客様もいるため、リードタイムの長期化の影響が懸念される。

半導体や成形用樹脂も不足しており、計画通りに生産ができるか不透明な状況。

Q. 4月以降スマートフォンの販売台数が前年を下回っているが、放電加工機の需要環境の悪化に繋がるリスクはあるか。

A. スマートフォンの需要は落ちるかもしれないが、5G関係を含めて情報通信全般の需要が強いため、リスクは限定的。

Q. 中国の自動車関連投資はエンジン車とEV関連投資のどちらが多いか。

A. 明確には把握しきれないが、当社は従来よりエンジン回りの加工は少ない一方で、電装部品や車載用コネクタ、センサー、LEDヘッドライト、モーターコア、電池向けなどが多い。

■ 工作機械事業

Q. 競争環境に変化はあるか。

A. 特に変化なし。

Q. 放電加工機の生産能力はあまり余裕がないと思うが、中期的な生産体制についてどう考えているか。また、アモイ工場の既存の食品機械部分を工作機械にあてた場合、どのくらい能力増強になるか。

A. コロナ禍で落ち込んでいた工場の稼働が急に回復したため、立ち上がりは厳しい時もあったが、ピーク時の2018年と比較すると、生産のキャパシティとしてはまだある程度の余裕がある。アモイ工場の増強に伴う増加分の詳細な数字はお示しできないが、機械が置けるスペースや板金ラインの整理により、生産ラインのスペース確保による能力増強ができるものと考えている。

Q. 中華圏で売れている機種に変化はあるか。

A. ほぼ日本と変わらないレベルの機械販売が増加している。当社として廉価版のVL機をラインナップしているが、より高性能なAL機が販売のメインとなっている。

Q. 金属3Dプリンタの受注・販売状況について。

A. コロナ禍の不透明な中で非常に厳しい状況にあり販売が進んでいない。

産業機械事業

Q. 縦型射出成形機の受注・売上実績について。

A. 上期の縦型射出成形機の販売台数比率は射出成形機全体の販売の3分の1程度。

Q. 生分解性プラスチックの開発状況について。

A. V-LINE®の特性を活かし展開している機械。製品はリリース済みで、今はアプリケーションを増やしている状況。メジャーな用途である容器系だけではなく、様々な構造にも対応できるように研究を進めている。

設備投資

Q. アモイ新工場で産業機械と食品機械の生産キャパシティはどの程度拡大するか。

A. 射出成形機のエントリーモデルを月産100台生産予定。単価は中国で生産したほうが、日本で生産するMS機よりも低い価格で生産が可能。コストダウン含め収益改善に取り組んでいく。こうした取組等により産業機械事業の収益性を、売上高の10%以上の利益を確保できるように計画している。

食品機械は現状の売上高65億円からプラス10億円以上の拡大を見込んでおり、利益率については日本で生産よりも改善する予定。